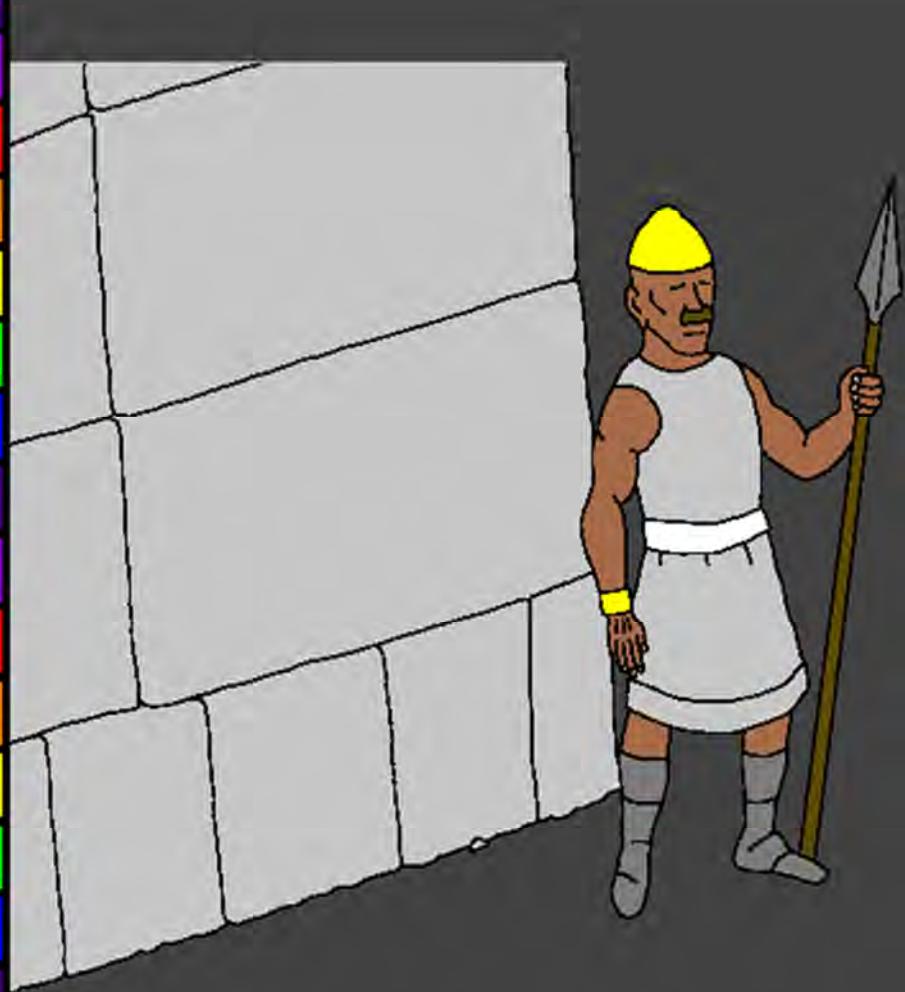


こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



ネヘミヤの
おお
大いなるかべ



文: Edward Hughes

絵: Jonathan Hay; Alastair Paterson

改作者: Mary-Anne S.

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2022 Bible for Children, Inc.

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、
許可されています。

はなし

くに

ちから

ペルシャという とても力のつよい国が、ありました。このお話は、

くに せかいじゅう

その国が世界中で、いちばんつよかつたころのことです。

おう

おう

そこの王さまアルタクセルクセス王は、

せかい いち ちから

おう

世界で一ばん力のある王さまでした。



おう

つか

たいせつ

やくにん

ひとり

その王さまに、仕える大切な役人の一人には、

じん

な

おとこ

ひと

ユダヤ人でネヘミヤという名の男の人がいましたよ。

しごと

おう

た

さき

た

かれの仕事はね、王さまの食べものを先に食べて、

はい

「どくが入っていないかな？」って、

しらべることでした。こうやって、

おう

まも

かれは王さまを守っていたのです。



ある日、ネヘミヤは、とてもかなしそうなかおをして、
王さまの前にやってきました。「いったい、どうしたんだろう。」王さまは、
しんぱいです。ネヘミヤは、「王さま、どうか、ずっといつまでも、
生きてくださいますように。」と言ってから、
わけを話しました。



おう
「王さま、わたしが、かなしんでいるのは、
な ちち まち
亡くなつたわたしの父が、うずめられている町が、あれはててしまい、
もん や
門も焼かれてしまつたからなのです。」ネヘミヤは、
まち
エルサレムの町のことを、言つているのですね。
なんねん
そこは、何年もまえに、たたかいがあり、
ほろぼされていました。



おう

王さまアルタクセルクセスは、たずねました。「ネヘミヤ、それじゃ、

どうしたらしいのかな？」ネヘミヤは、^{おう}王さまにおねがいしました。

おう
「王さま、わたしをエルサレムへ行かせてください。そうすれば、

まち
町をたてなおすことが、できるのです。」

「よし、わかった。



い
行くがいい！」アルタクセルクセス王は、よろこんで、
さんせいしてくれましたよ。それにね、王さまは、
ネヘミヤがたびをしているあいだ、守ってやろうと思って、
その役人への手紙も、持たせました。



おう

王さまはね、それだけじゃなくて、

たす

もっともっとネヘミヤを助けたのですよ。じつは、

ひと

か

も

アサフという人にてがみを書いて、ネヘミヤに持たせました。

おう

もり

ひと

アサフは、エルサレムの王さまの森を、かんりする人です。

か

そのてがみには、こう書かれていました。ネヘミヤが、

まち

つか

もくざい

町のかべをたてるために使う木材を、できるだけたくさん

ようい

用意するようにとね。



つ

まち やくにん

い

エルサレムに着いたとき、ネヘミヤは、町の役人たちを、あつめて言いました。

いま

まち

「われわれは、今、たいへんなときなのだ。この町は、すっかり、

もん

ほろびてしまった。門までやかれてしまったのだから。



あたら

さあ、みんなで、新しくたてなおそうではないか。」ネヘミヤは、

おう

かれらにアルタクセルクセス王も、さんせいされていることを言いました。

なに

いち

たいせつ

かみ

い

そして、何よりも一ばん大切なこと、つまり、神さまが、

みかた

つた

味方してくださっていることを伝えました。



かみ

しん もと

き

ネヘミヤが、神さまを信じ求めるつよい氣もちは、

ひと

人びとに「やろう！」という氣を、おこさせたにちがいありませんね。

き

かれらは、うなずきあつて言いました。「ようし、やろうじゃないか！」

い

ネヘミヤは、それぞれの家へ行き、かべのどの部分を、

いえ

い

ぶぶん

なおさなければならぬかを知らせました。

し



なお

でもね、みんながみんな、かべをたて直そうって、
よろこんで言ったわけじゃないんですよ。

な おとこ ひと

サンバラテという名の男の人、

ふたり とも

それにかれの二人の友だちトビヤとゲシェムは、

じん

ユダヤ人じゃありませんでした。



なお

だから、かべをたて直したり、
もん なお
門をやり直したりした
くなかったのです。



さて、仕事がだんだんすんでくるのを見て、サンバラテは、
とても腹がたってきました。そこで、かれとその友だちは、
ユダヤの人をからかいました。トビアは、
こんなことを言いましたよ。



「やあい、そんなに、うすっぺらいかべの建てものをつくって、
どうするんだい？小さなキツネがやってきて、こなごなにするだろうさ。」
ネヘミヤは、いくらからかわれても、知らんかお。かわりに、ただ祈りました。
だって神さまが、そんなやつらを、さばいてくださるのですから。



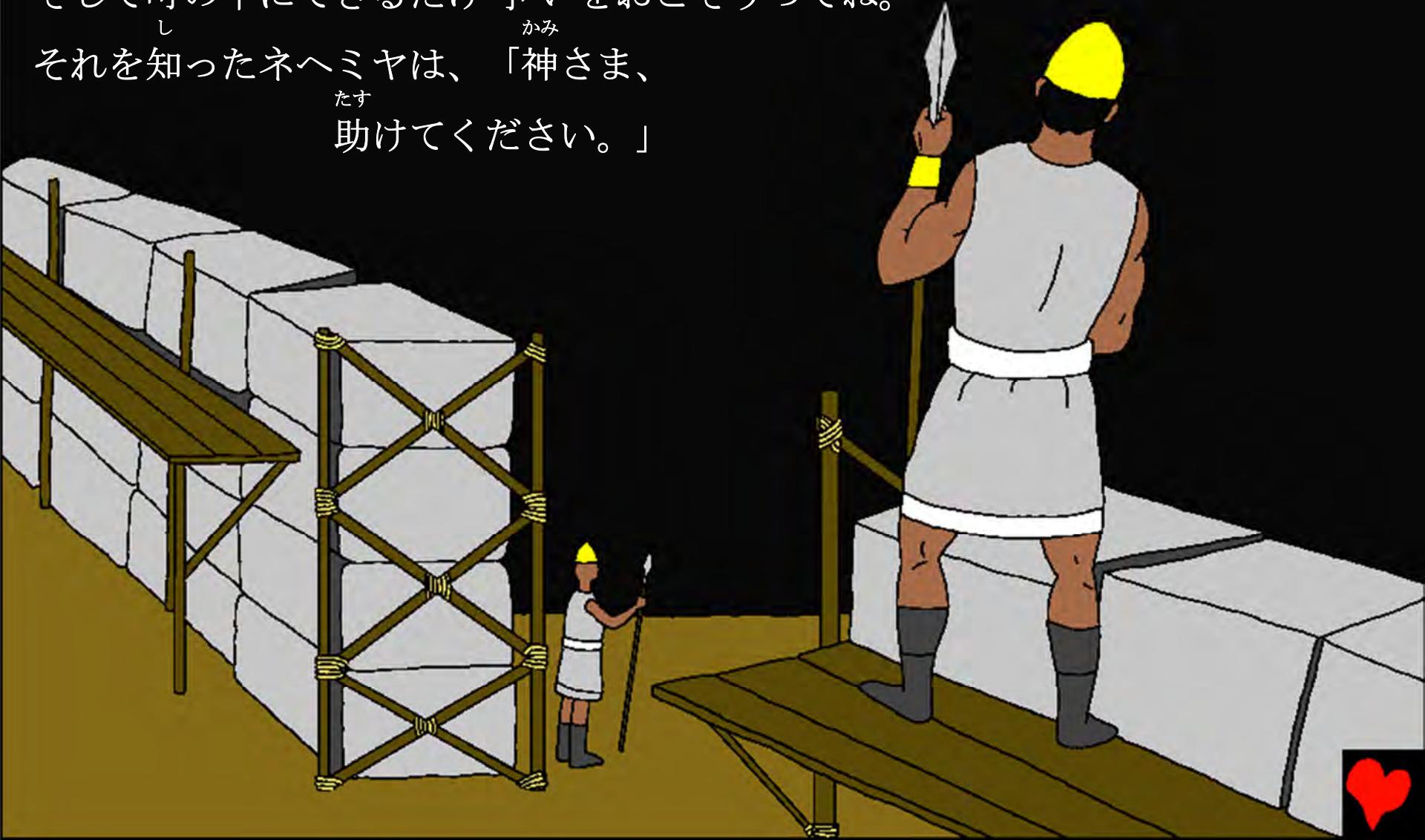
なん やく
ネヘミヤたちを、どんなにからかっても、何の役にもたたないようです。
けいかく

そこで、かれらはいっしょに計画をたてました。エルサレムを攻めよう、
まち なか あらそ

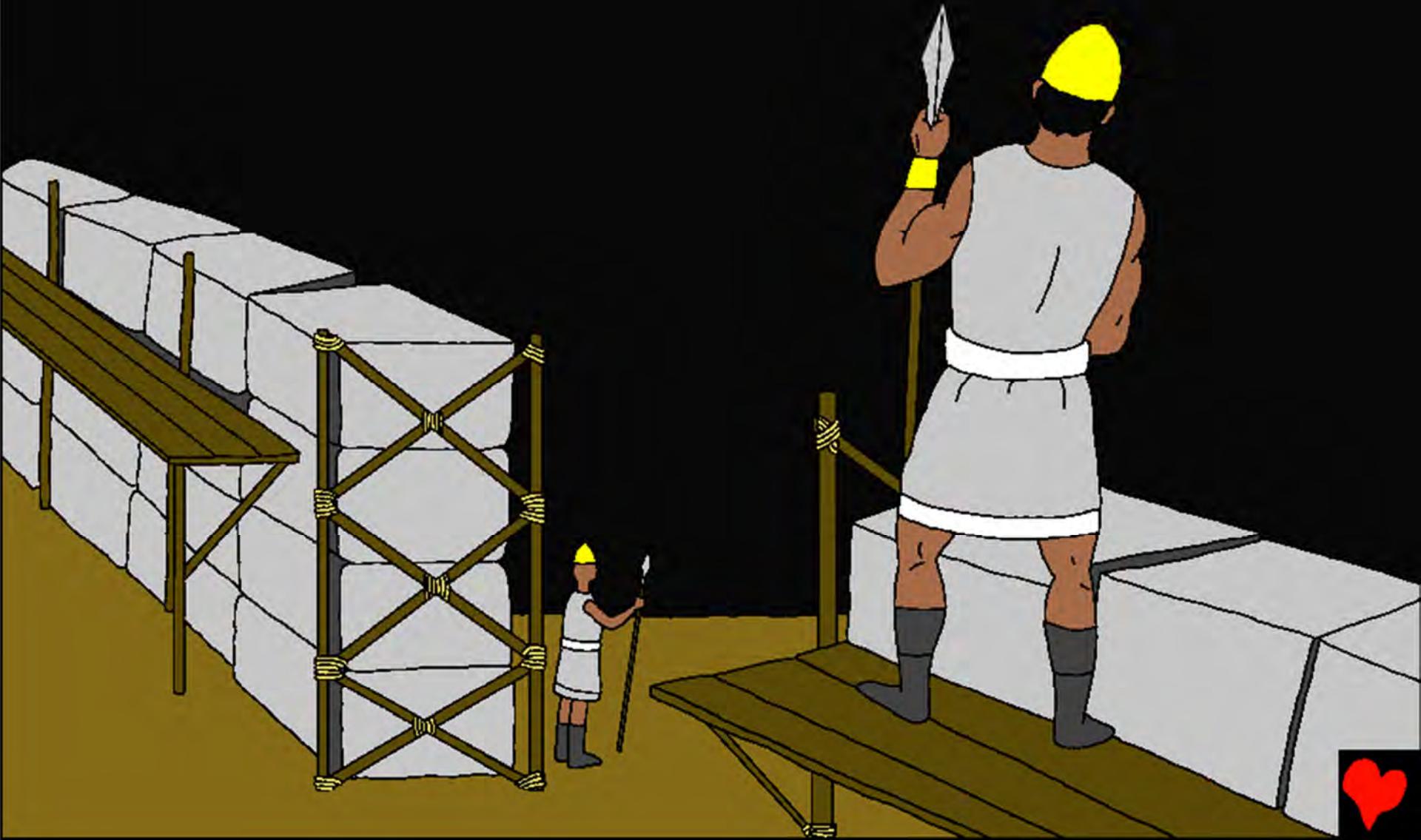
そして町の中にできるだけ争いをおこそうってね。
し かみ

それを知ったネヘミヤは、「神さま、
たす

助けてください。」



いの
つて、また祈りました。そして、悪いやつらに、とつぜん攻められないよう、
ひる よる わる み
昼も夜も、見はりばんを、おくことにしました。



ひと

ユダヤの人たちは、

はたら

ほんとうにいっしょにけんめい 働きました。

それで、だんだん、つかれてきたようですよ。

ひと

ある人たちは、

なんだかこわくなってきて、

かんが

こんなことを 考えるようになりました。

はたら

あいだ

せ

働いている間に、てきが攻めてきて、

じぶん

ころ

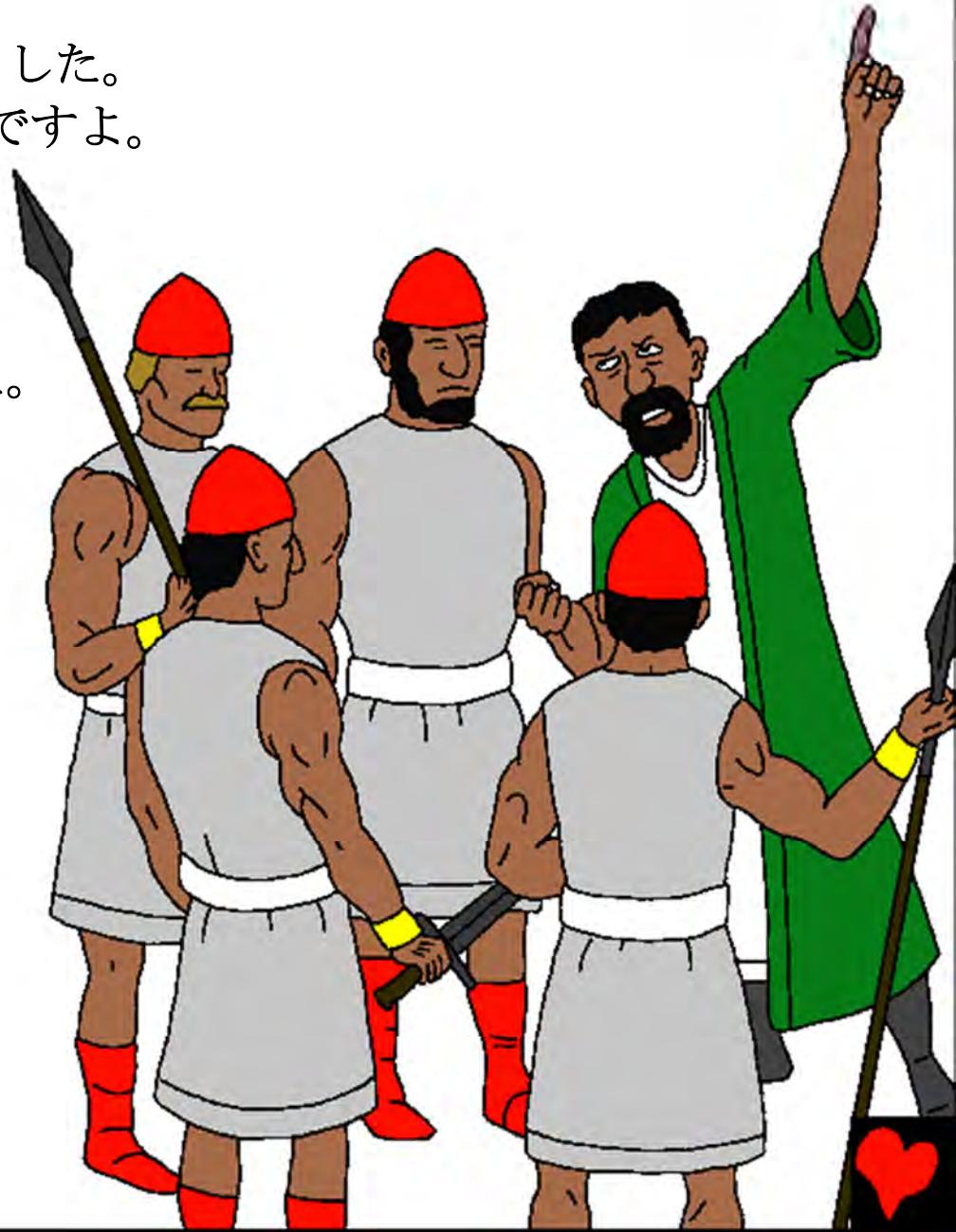
自分たちを殺してしまうんじゃ

ないだろうかって。それでも、

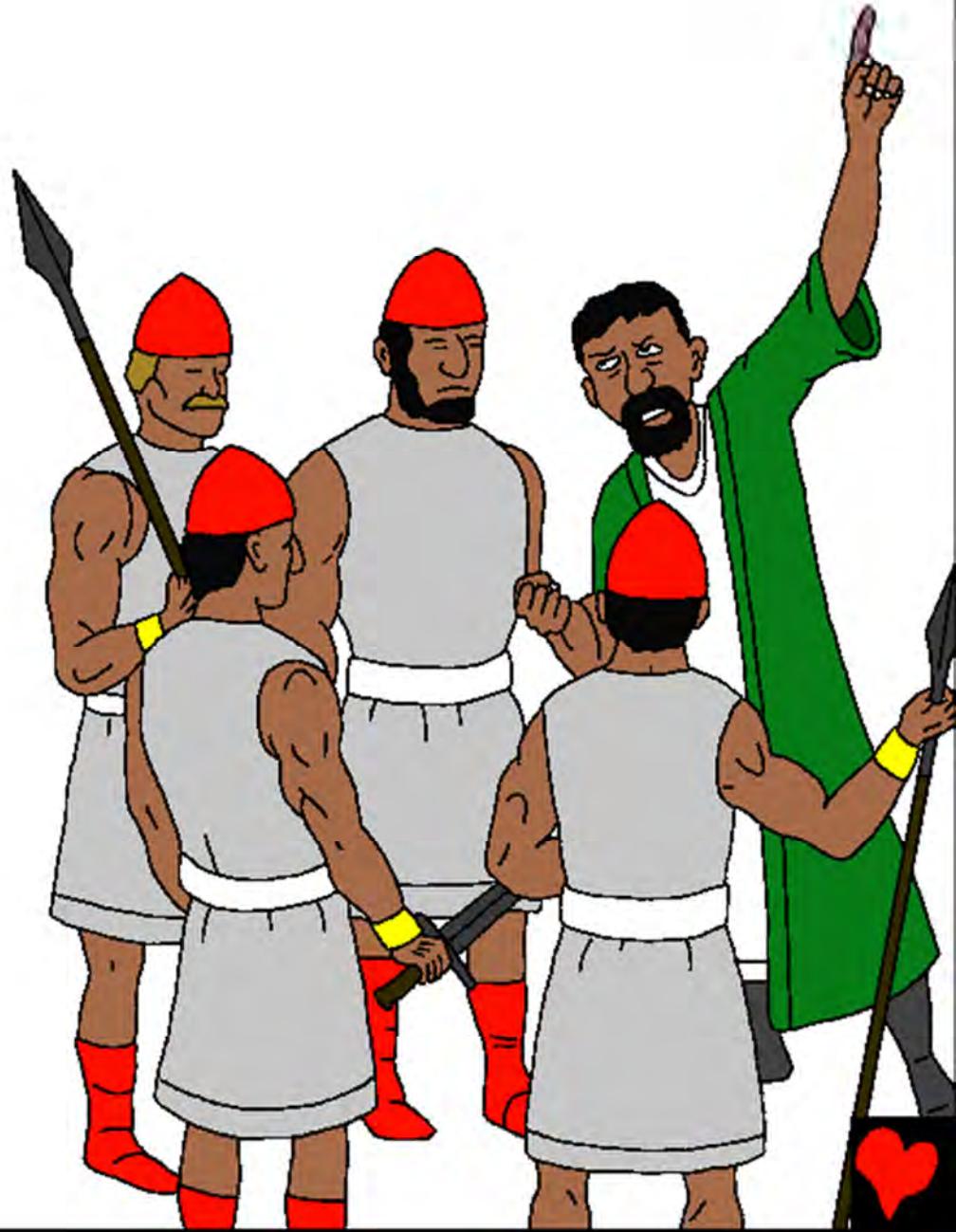
しごと

ネヘミヤは、この仕事を、

とちゅうでやめたりしません。



まわりに見はりの人をおいて、
みんなをはげました。
「わたしたちには、
どんなに強いてきよりも、
もっと強い神さまが、
ついていらっしゃるんだ。」
こういって、
みんなに神さまのことを、
思い出させました。



ネヘミヤは、みんなのよい
てほん
お手本になろうとしました。
おう
アルタクセルクセス王は、
ちょうかん
ネヘミヤをエルサレムの長官にし、
ひと かね た
人びとからお金や食べものを、
とりたてることができるよう
にしました。でもね、かれは、
そんなことは、
いっさいしませんよ。



ひとびと

ただ、人々といっしょに、
はたら
いっしょうけんめい働きました。
あたら
かべを、新しくしようってね。
た か
食べものを買うときは、
じぶん かね
もちろん自分のお金
をつかいますよ。



やつとのことで、人々は、かべをつくり終わりました。
なか もん

ただし、まん中の門のとびらだけ、まだですね。あれあれっ、

かべがすっかりできあがったことを聞いたサンバラト、トビヤとゲシェム、
わる おも
なにやら悪いことを思いついたようですよ。ネヘミヤを、困らせてやろうって。



かれらは、ネヘミヤにメッセージを送って言いました。「オノというところで、
あ
会いましょう。」けれども、ネヘミヤは、かれらが自分をだまして、
まち
町からつれ出し、困らせようとしているとわかりました。そこで、
か
ネヘミヤは、かれらにこのようにへんじを、書きました。「わたしは、
あ
あなたたちに会いにいけません。今、しごとを休むわけにいかないんです。」



とうとう、かべも、
とびらもできあがりました。

ネヘミヤは、町をまもるため、
あちこちに見はりの人
をおきましたよ。



それから、
ネヘミヤはひとつのきまりを作りました。



それはね、お日さ
あ から
まが上がって、空がほんと
うに明るくなるまで、



もん
門を開けてはならないってきまりです。
よる もん
夜になると、門をみんなしめてしまい、
かんぬきが、かけられました。



まち

あんぜん

せかいじゅう

ひとびと

だから、町はもう安全ですね。世界中においやられたユダヤの人々が、
またエルサレムにもどってきましたよ。ネヘミヤは、うれしくてたまりません。

かみ

あた

どうしてって、たくさんのつらいことをのりこえて、神さまがネヘミヤに与えら

しごと

れた仕事を、さいごまでやったのですから。

そのあとも、ネヘミヤは、みんなといつしょにエルサレムに

す
住みました。「いつも、

かみ
神さまにしたがいま

い
しょう。」って言
って、はげましつづけましたよ。



かみ み せいしょ しる
おお
ネヘミヤの 大いなるかべ

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

き
ネヘミヤ記

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書 物語 は、 私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
かみ かみ
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしってほしいと、
おも
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし
神さまは、 私たちが、よくないことをしてしまったことを、しっていらっしゃいます。それを、
かみ つみ つみ し
神さまは、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをとても愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさま
よおく つみ じゅうじかじょう な
を、この世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたので
す。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、
あなたがイエスさまを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてください
いま ところ き なか す
ます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に住んでくださいます。

そして、いつまでもイエスさまといっしょに生きることができますよ。

あい かみ わたし かみ しん かみ い
もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。
な
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡く
い

なってくださいました。そして、よみがえって、いま生きて
わたし なか き つみ わたし いま
いらっしゃいます。どうか、私のこころの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、
いのち ところ い
あたらしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっ
しょにいることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができます
こ い
よう、たすけてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16